



2004年9月中間期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2004年11月5日

お問合せ先:

財務・IR広報部 (IR広報担当) マネジャー
柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



04 / 9 は実質増収、営業利益は減益に

2004年9月中間期の連結業績

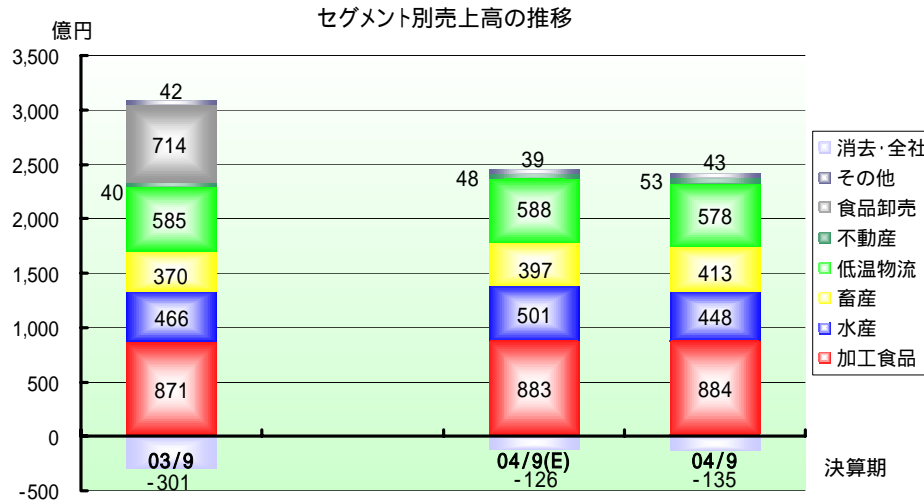
| 単位:金額 = 億円(未満切捨て) | 03/9 | 04/9(E) | 04/9 | 04/9対03/9比較 | |
|-------------------|-------|---------|-------|-------------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 2,787 | 2,330 | 2,284 | -502 | -18.0% |
| 営業利益 | 84 | 72 | 78 | -5 | -7.1% |
| 経常利益 | 72 | 72 | 74 | 2 | 2.8% |
| 中間(当期)純利益 | 39 | 26 | 42 | 2 | 7.2% |

- 売上高** 04 / 9 (E)・・・2004年9月中間期見込・・・は8月3日に発表したもの
畜産・加工食品・不動産が増収、連結除外のユキワの影響535億円を除けば全体でも実質増収
- 営業利益**
加工食品は冷凍食品主原料の鶏肉・牛肉の高騰とアセロラの減収が響いて減益
水産は採算が改善するが取扱数量の目標未達で固定費が賄えず営業損失の解消には至らない
低温物流は新設拠点の初期費用発生で減益だが地域保管は運営の効率化が進む
不動産は京都市下京区の土地売却などで増収増益に
- 経常利益**
金融収支は03 / 9比2億円の改善、持分法投資損益も6億円のプラスに
- 中間(当期)純利益**
投資有価証券売却益11億円があり特別損益はプラスに、前回見込で中間期に予定していた低温物流事業の分社化に伴い従業員が転籍することによる割増退職金は下期に



加工食品と畜産が増収、水産は利益の改善が進む

セグメント別売上高と営業利益(その1)



1.加工食品

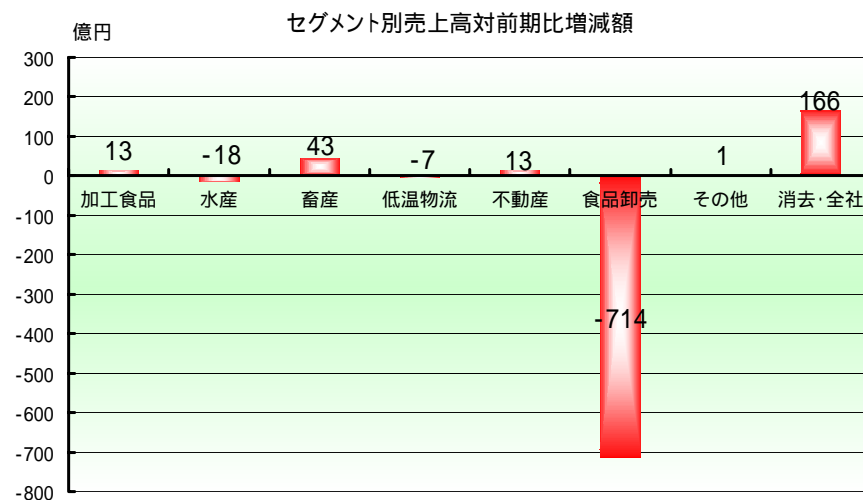
冷凍食品は鳥インフルエンザ発生によりチキン加工品が影響を受けたが全体では増収。アセロラは主力のPETボトルが競合他社の低価格品の攻勢を受け減収に。営業利益はアセロラの減収に加え鶏肉・牛肉などの原料価格が高騰し減益に。

2.水産

えびは相場の軟調が続き素材品の取扱を絞ったが、加工品の販売が順調で採算を維持した。たこは漁解禁の遅れもあり取扱の回復が進んでいない。売上高は03/9比4%減。利益面は改善が進むが、取扱数量が確保できず固定費を賄えないため営業損失の解消には至らない。

3.畜産

輸入チキンの取扱が減少したが国内産チキン・豚肉・牛肉の取扱増でカバーし増収、営業利益は好調だった前期実績までには届かず微減となる。

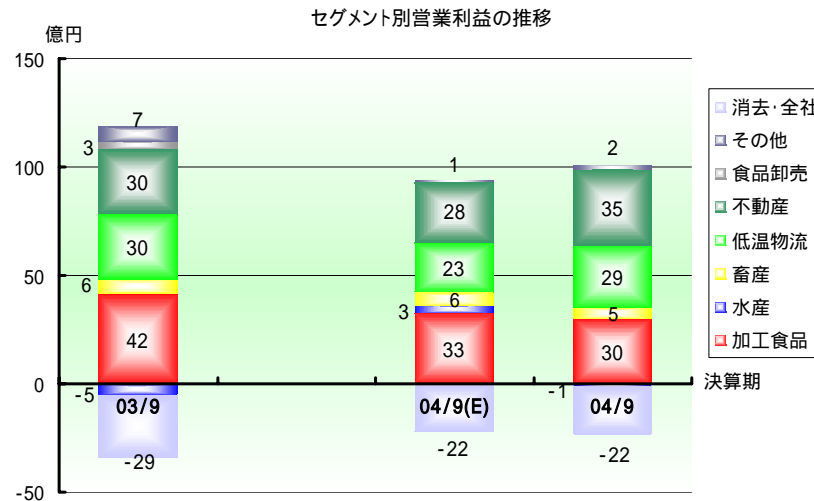


(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



低温物流に回復の兆し、不動産は増収増益に

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

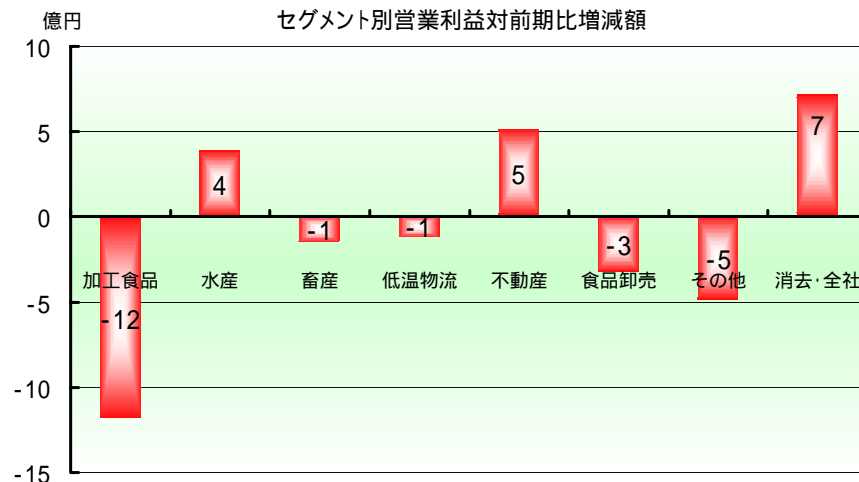
物流ネットワークは新設拠点の稼働開始で03/9比増収だが初期費用の発生で減益に。地域保管は取扱物量の減少傾向に歯止めがかかり、4月の組織再編に伴う地域子会社との統合による運営の効率化もあって増益。

5. 不動産

下期に予定していた京都市下京区の土地売却を実施したことで増収増益に。

6. その他

バイオサイエンスはアセロラエキスを使用した化粧品原料などの機能性素材が順調。米国のてんぐはBSEの影響で主力製品のビーフジャーキーの生産休止が続く。





調理冷食は鳥インフルエンザの影響あるも増収に

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

03 / 9比2%の増収、調理冷食は家庭用・業務用を合わせると1%の増収。冷凍野菜は中国産冷凍ほうれん草の販売自粛が6月に解除されたが本格的な販売再開は今後で、若干の増収に留まる。

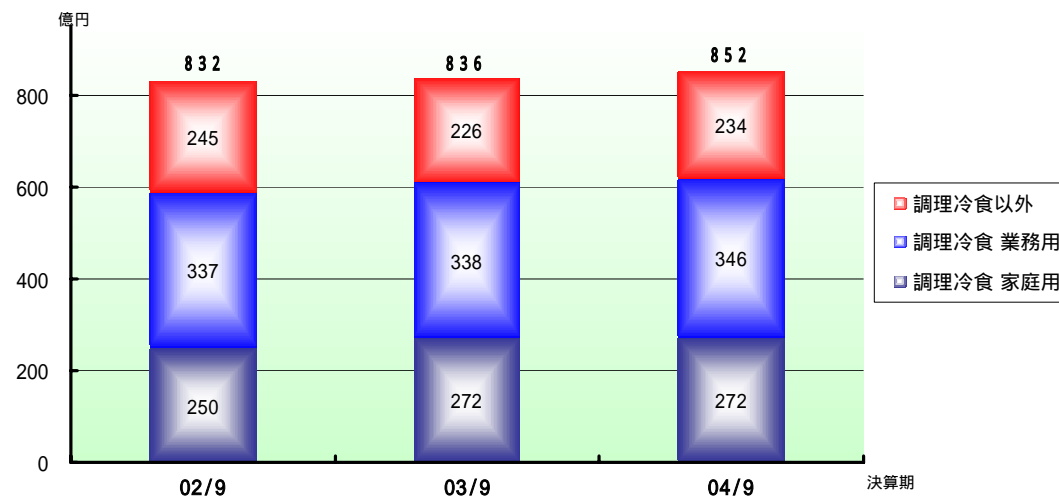
2. 調理冷食

家庭用:売上は03 / 9比横ばい。鳥インフルエンザの影響でチキン加工品が大幅減となった。一方で「お弁当にGood!」シリーズは原料問題から一部のチキン商品の販売を一時的に停止したものの、「からあげチキン」「ミニハンバーグ」などの主力商品が順調で、シリーズ全体ではほぼ前年並の売上を確保した。

業務用:03 / 9比2%の増収。チキン加工品は中国・タイの鳥インフルエンザ発生による輸入停止措置の影響を受けて大きく減収となるも、「グレイビーハンバーグ」が引き続き好調、米飯類や中華惣菜も「和の菜飯」「點心(てんしん)春巻」など新商品投入の効果が現れ売上を伸ばした。

カテゴリー別には「グレイビーハンバーグ」が牽引する食肉加工品を筆頭に米飯類や中華惣菜が好調、一方で鳥インフルエンザの影響を受けたチキン加工品が減収。

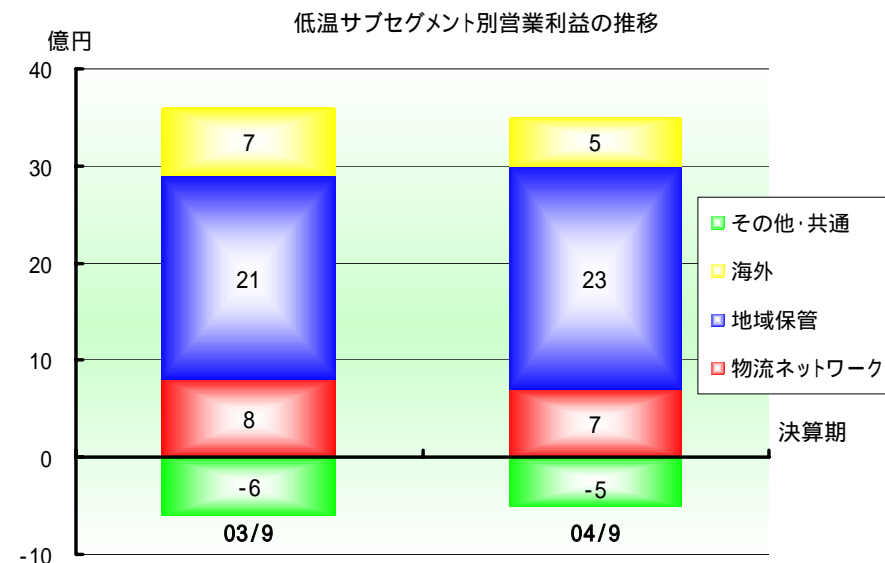
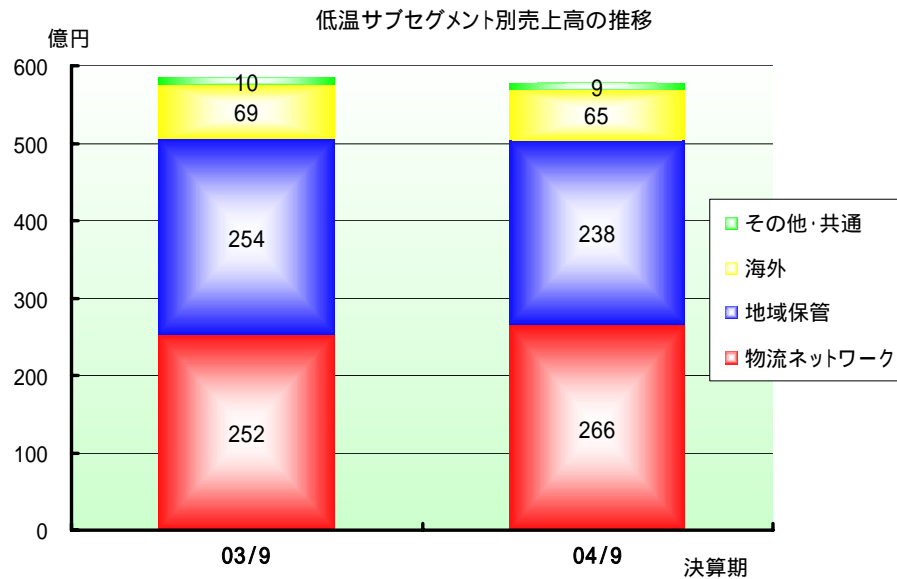
冷凍食品売上高の推移





低温物流は地域保管が底を打ち、改善が進む

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 物流ネットワーク

岩槻・川崎高津・新座で物流センターが新設稼働、川崎ファズ物流センターも新規顧客の業務受託で増床部分が稼働を開始して増収だが、これらの拠点における初期費用の発生により減益に。

2. 地域保管

前期比16億円減収のうち13億円は旧冷蔵子会社の食品部門が「その他の事業」にセグメント変更した影響で実質ではほぼ横ばい。地域分社化に伴い旧ニチレイと地域子会社の業務が統合された関西地区で運営の効率化が進展して営業利益は増益。

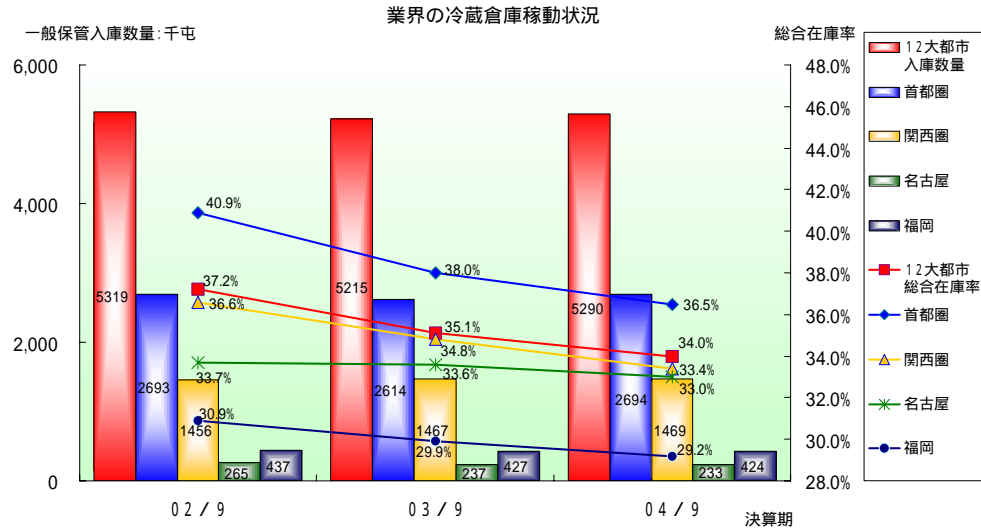
3. 海外

前年同期にあった関税税率変更に伴うチキンの一時的な物流需要が今中間期にはなく、売上・営業利益とも通常の水準に。



業界も当社も入庫量は概ね横ばい、在庫率は低下

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

1. 業界の状況

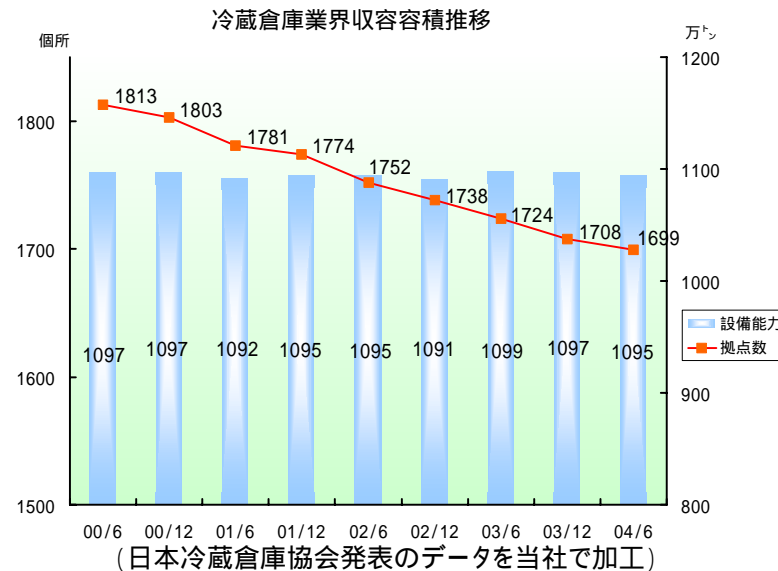
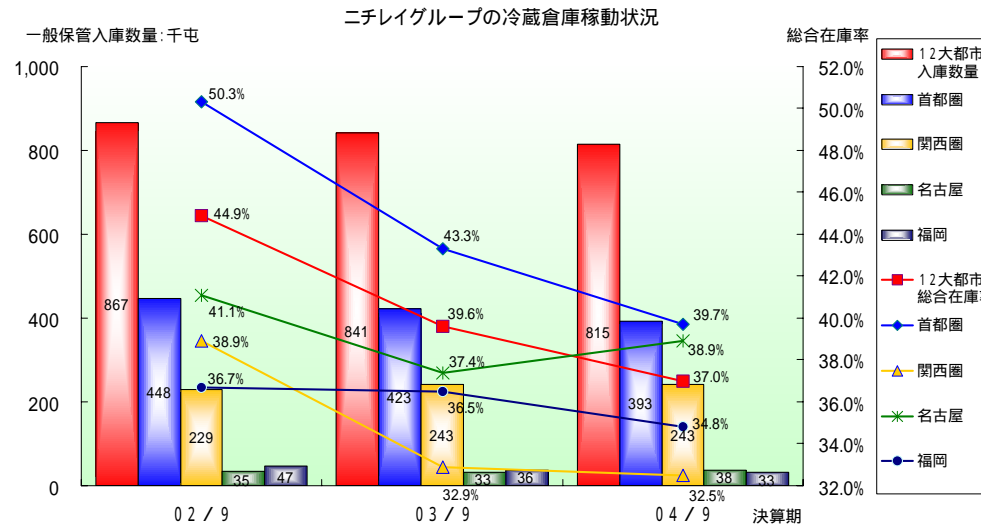
入庫量は首都圏で若干増加した以外は横ばい、在庫率は全般的に低下傾向にある。

2. ニチレイグループの状況

入庫量は首都圏を除くと概ね横ばい。取扱貨物の中で回転の早い冷凍食品の比率が高まり、在庫率は低下傾向に。

3. 業界の設備能力

拠点数の漸減傾向と設備能力の横ばいが続く。





有利子負債の増加は季節要因によるもの

04 / 9期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

| 科目 | 04/3 | 04/9 | 増減 |
|------------------|-------|-------|-----|
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | 1,081 | 1,203 | 122 |
| 固定資産 | 1,765 | 1,740 | -25 |
| 資産の部合計 | 2,847 | 2,944 | 97 |
| (負債・資本の部) | | | |
| 流動負債 | 1,019 | 1,085 | 65 |
| 固定負債 | 920 | 933 | 12 |
| 負債の部合計 | 1,940 | 2,018 | 78 |
| 少数株主持分 | 5 | 5 | 0 |
| 資本の部 | 901 | 920 | 18 |
| (有利子負債) | 1,243 | 1,290 | 46 |
| 科目 | 03/9 | 04/9 | 増減 |
| (設備投資額) | 25 | 26 | 1 |
| (減価償却実施額) | 58 | 54 | -3 |

【主な要因】

売上債権が118億円、棚卸資産が74億円増加、いずれも売上が3月より9月前後に増加する季節要因によるもの。設備投資抑制の結果、有形固定資産が30億円減少したほか、投資有価証券が売却などにより41億円減少した。一方で繰延税金資産が流動資産からの振替により48億円増加した。

季節要因により仕入債務が53億円増加。資金調達コストの低位安定化と財務安全性比率の改善を図るため、長期借入のウェイトを高めている。

季節要因による運転資金の増加により前期末比では増加したが、03 / 9比では140億円の減少。05 / 3の期末残高目標1,200億円以下は達成する見通し。

04 / 9の設備投資の主なもの:
 名港中央物流センターの新設
 岩槻物流センターの新設
 ニチレイフーズ白石工場のライン増設

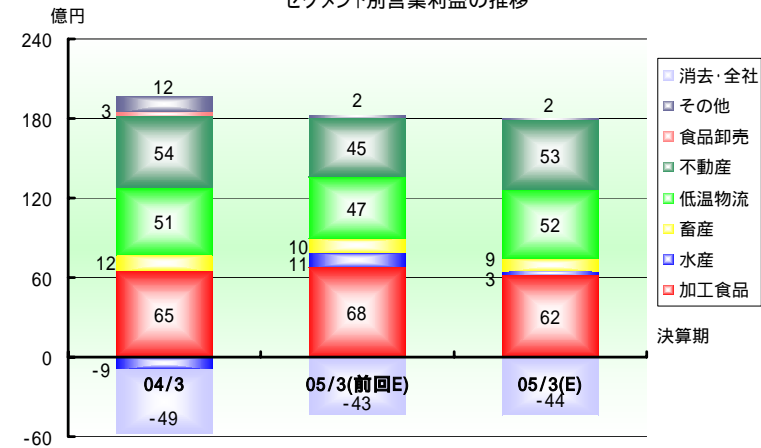
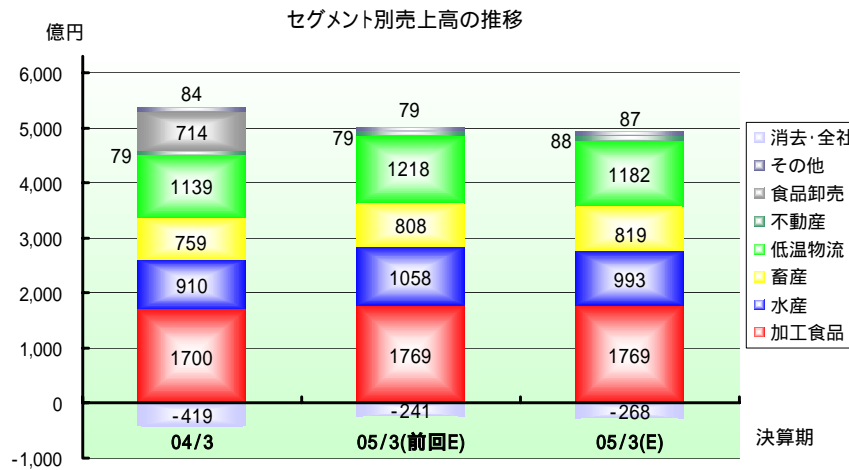


下期も各事業で施策を着実に実行

2005年3月期の連結業績見込み

| 単位:金額 = 億円(未満切捨て) | 04/3 | 05/3(前回E) | 05/3(E) | 05/3(E)対04/3比較 | |
|-------------------|-------|-----------|---------|----------------|-------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 4,966 | 4,770 | 4,670 | -296 | -6.0% |
| 営業利益 | 139 | 140 | 137 | -2 | -2.0% |
| 経常利益 | 120 | 139 | 134 | 13 | 10.8% |
| 当期純利益 | -18 | 50 | 46 | 65 | - |

05/3(前回E)は8月3日に発表したもの
セグメント別営業利益の推移



1. 加工食品は原料価格高騰が続き減益だが、チキン加工品は売上回復、アセロラも販売拡大策を実施。
2. 水産は取扱量の確保には引き続き厳しい環境だが、採算管理の徹底を図り通期では営業黒字に。
3. 低温物流は物流ネットワークで中間期に稼働を開始した新規拠点が売上増に貢献、地域保管の改善も更に進んで通期では増収増益に。



営業外収支と特別損益は前期比好転

| 単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す | 中間期 | | | | 通期 | | |
|-------------------------------|------|------|-----|--------------------------|-------|-------|-------|
| | 04/9 | 03/9 | 増減 | | 05/3E | 04/3 | 増減 |
| 【営業外収支】 (主要項目) | - 4 | - 12 | + 8 | 【営業外収支】 (主要項目) | - 3 | - 18 | + 15 |
| 金融収支 | - 6 | - 9 | + 2 | 金融収支 | - 14 | - 17 | + 3 |
| 持分法投資損益 | + 6 | - 0 | + 6 | 持分法投資損益 | + 14 | + 1 | + 12 |
| 【特別損益】 (主要項目) | + 3 | - 0 | + 4 | 【特別損益】 | - 49 | - 159 | + 110 |
| 投資有価証券売却益 | + 11 | + 10 | + 1 | | | | |
| 貸倒引当金繰入 | - | - 5 | + 5 | | | | |
| 営業権評価損 | - 5 | - | - 5 | | | | |

持分法投資損益の増減の主な内訳

中間期:アールワイフードサービスが新規で03/9比プラス4億円、スラポンニチレイ食品(冷凍食品)が1億円減

通期:アールワイフードサービスが04/3比プラス7億円、京都ホテルがプラス3億円、スラポンニチレイ食品が1億円減

タイのスラポンニチレイ食品は鳥インフルエンザ発生による一時的な生産停止が響く

保有資産の見直し・圧縮に伴う売却

米国のてんぐがBSEの影響による生産停止で企業価値が低下、計上していた営業権の価値がゼロと見なされるため一括償却したもの

下半期に発生が見込まれる主なものは

- 低温物流事業の分社化に伴い従業員が転籍することによる割増退職金
- 固定資産売却損

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

| | 中間期 | | | 下期 | | | 通期 | | |
|---------------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|
| | 04/9 | (前回E) | 03/9 | 05/3(E) | (前回E) | 04/3 | 05/3(E) | (前回E) | 04/3 |
| (売上高) | | | | | | | | | |
| 加工食品 | 884 | 883 | 871 | 885 | 886 | 829 | 1,769 | 1,769 | 1,700 |
| 水産 | 448 | 501 | 466 | 545 | 557 | 444 | 993 | 1,058 | 910 |
| 畜産 | 413 | 397 | 370 | 406 | 411 | 389 | 819 | 808 | 759 |
| 低温物流 | 578 | 588 | 585 | 604 | 630 | 554 | 1,182 | 1,218 | 1,139 |
| 不動産 | 53 | 48 | 40 | 35 | 31 | 39 | 88 | 79 | 79 |
| 食品卸売 | - | - | 714 | - | - | - | - | - | 714 |
| その他 | 43 | 39 | 42 | 44 | 40 | 42 | 87 | 79 | 84 |
| 全社または消去 | -135 | -126 | -301 | -133 | -115 | -118 | -268 | -241 | -419 |
| 合計 | 2,284 | 2,330 | 2,787 | 2,386 | 2,440 | 2,179 | 4,670 | 4,770 | 4,966 |
| (営業利益) | | | | | | | | | |
| 加工食品 | 30 | 33 | 42 | 32 | 35 | 23 | 62 | 68 | 65 |
| 水産 | -1 | 3 | -5 | 4 | 8 | -4 | 3 | 11 | -9 |
| 畜産 | 5 | 6 | 6 | 4 | 4 | 6 | 9 | 10 | 12 |
| 低温物流 | 29 | 23 | 30 | 23 | 24 | 21 | 52 | 47 | 51 |
| 不動産 | 35 | 28 | 30 | 18 | 17 | 24 | 53 | 45 | 54 |
| 食品卸売 | - | - | 3 | - | - | - | - | - | 3 |
| その他 | 2 | 1 | 7 | 0 | 1 | 5 | 2 | 2 | 12 |
| 全社または消去 | -22 | -22 | -29 | -22 | -21 | -20 | -44 | -43 | -49 |
| 合計 | 84 | 72 | 84 | 53 | 68 | 55 | 137 | 140 | 139 |

注:(E)は今回発表した見込、(前回E)は8月3日に発表した見込



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に対する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果 など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。